

## 2021年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 4件

採択件数 3件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学研究科 土井 紀子	5名 (芸術学研究科1名) (芸術学部4名)	小さな祈りの影絵展2021	広島市内の幼稚園・中学校・高等学校などと連携を図り影絵を制作し、「小さな祈りの影絵展」を開催する。また、協力団体等において巡回展示を行う。	芸術学部 助教 田中 智美
2	国際学部 河本 涼音	5名 (国際学部3名) (芸術学部2名)	ONE DREAM 2021 学生プロジェクト	「世界が良くなるために行う、あなたの2021年のアクション」をテーマに世界各地の人々から2021枚のメッセージカードを募集して制作する作品等を8月5日に展示する。	国際学部 教授 金谷 信子
3	芸術学研究科 上本 佳奈	16名 (芸術学研究科5名) (芸術学部11名)	「リノベーション＋芸術航路—広島市立大学芸術学部有志展—」プロジェクト	呉市大崎下島の御手洗にある古民家の空きスペースを使い、アート作品を展示する。また、使われていない古い納屋の中をリノベーションし、今後イベントスペースとして誰でも有効活用することができるように整備する。	社会連携センター 特任講師 三上 賢治

## 2020年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 4件

採択件数 4件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 澤村 駿介	3名 (情報科学研究科1名) (情報科学部2名)	地域特化型『テイクアウト情報共有サイト』プロジェクト	コロナ禍の中、「テイクアウト」という分野において、飲食業界を救えるような地域貢献を目指し、一人暮らしの学生が多く住む横川や安佐南区などの飲食店と学生(客)をつなぐテイクアウト情報共有サイトを制作する。	情報科学研究科 教授 高野 知佐 情報科学研究科 准教授 小畑 博靖
2	芸術学研究科 板井 三那子	2名 (芸術学研究科2名)	三原市の地域再生と継続のための写真展と地域文化史制作	三原市本郷町の風景、生活文化を記録・伝えていくことを目指し、地域住民が生活の様子を写した写真をもとにインタビューやフィールドワークを行い、住民たちの生活の記録を作成し、写真展で住民と一緒に発表する。	芸術学部 教授 チャールズ・ウオーゼン
3	芸術学研究科 大上 ひとみ	3名 (芸術学研究科2名) (芸術学部1名)	訪日外国人と日本人とのコミュニケーションを生み出す風呂敷作り	言葉が通じなくても気軽に外国人と日本人がコミュニケーションをとれるツールとして風呂敷を作成し、国際交流の楽しさや重要性を感じる手助けとなることを目指す。	芸術学部 教授 納島 正弘
4	国際学部 平田 真己	2名 (国際学部2名)	生きづらさを可視化するージェンダー・セクシュアリティの視点からー	大学での学びの地域への還元と共通のテーマを学ぶ広島市内の大学生同士の交流の場を作り、ジェンダー・セクシュアリティにまつわる疑問、生きづらさ、違和感を生み出す社会構造に目を向け、言語化・可視化することを目標とし、学生と一般市民が一緒になって考えるワークショップを開催する。	国際学部 教授 ヴェール、ウルリケ

## 2019年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 8件

採択件数 6件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 近藤 匠	7名 (情報科学部 6名) (芸術学部 1名)	いちだいプログラミング教室	プログラミング言語を使って絵を描いてもらうなど、コンピュータの仕組みやプログラミングについて小中高生に知ってもらうことを目指す。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 松本 拓也	2名 (芸術学部)	宮島ろくろ発信プロジェクト	パッケージデザインの提案や、写真集などの制作を通して、宮島伝統産業「宮島ろくろ」の魅力を伝えるとともに、伝統継承のきっかけづくりを目指す。	芸術学部 大塚教授 及川教授
3	情報科学研究科 小野 美宙	4名 (情報科学研究科)	RFIDのタグを用いたタイム計測の自動化	地域の体育協会からの依頼を受け、新春ロードレース大会でのタイム計測の自動化を目指す。	情報科学研究科 馬場講師
4	芸術学研究科 細萱 航平	2名 (芸術学研究科)	「災禍とモノと物語り」展における市民向けシンポジウムと震災遺構のVR体験の同時開催事業	シンポジウムと東日本大震災の遺構の3DデータアーカイブVR体験会を通して、災害の記憶の継承に関わる市民活動に貢献することを目標とする。	芸術学部 伊東教授
5	芸術学部 浅井 優人	15名 (芸術学部)	芸術、文化の更なる普及と、地域の魅力の再発見	制作した作品を八丁堀や横川地区等へ持ち出して写真撮影し、その写真集を配布することで、芸術に触れる機会を提供し、地域の魅力を伝えることを目指す。	芸術学部 丸橋助教
6	国際学部 森脇 美鈴	3名 (国際学部 2名) (情報科学研究科 1名)	とびしま海道のグルメ旅の情報発信	少子高齢化の進む島しょ部のグルメ情報をまとめたアクセスマップを作成するとともに、観光案内所等に設置し、観光振興に貢献することを目標とする。	社会連携センター 三上特任助教

## 2018年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 10件

採択件数 6件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 林 侑香里	7名 (情報科学部 7名)	広島の中・高校生を 対象としたプログラミ ング教室	広島の中・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、LinuxボードRaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 川口 綾乃	25名 (芸術学部 22名) (情報科学部 2名) (写真映像教務員 1 名)	横川プロジェクト	横川を題材にそこに住む人々やその土地の活気ある風景、建造物など横川独自の背景を生かし、学生の視点から横川の魅力を再発見し、発信する。横川という町は機能的でシンプルな近年の新しいデザインとは異なり、横川に息づく人やモノ、それぞれの時間が積み重なって構成されている町である。特に横川の建造物やそこに住んでいる人々にはそれらが顕著に表れており場所によっては隣り合う建物同士を比較して互いに時代錯誤な感覚を得ることも少なくない。そういった横川にしかない感覚を作品として昇華させることでその作品を目にした人々に新たな視点を発信し、横川を知らない人もすでに知っている人も含め、横川という魅力ある町に興味を持ってもらう機会を提示する。横川をテーマに作品を制作しそれらを発信する手段として作品をまとめた雑誌を制作。作品制作の為の取材や撮影などを地域と協力していくことで新しい環境での多面的な問題解決力を身につける。同時に学生のコミュニケーション能力、技術向上を目指す。成果物は大学祭で販売。横川では雑誌の委託販売、展示を行う。	芸術学部 吉田教授
3	情報科学研究科 藤井 信吾	21名 (情報科学研究科9 名) (情報科学部12名)	市大生によるパソコンな んでも相談室2018	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
4	情報科学部 武内 亮	2名 (情報科学部2名)	ヒロシマピースキャン プ 2018	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授
5	情報科学科 山崎 樹生	5名 (情報科学科 5名)	情報化社会に対する興 味を深めよう	今後の未来を担う(になる)高校生にIT分野にも興味を深めてもらうことを目的とする。 まず、高校生の情報化社会に対する考えを調査するために8月5日のオープンキャンパスでアンケートを実施する。次に企業へ訪問し、アンケート結果と自分たちの考えを伝えて情報化社会について話し合う。最後にアンケート実施と企業との話し合いで学んだことをまとめ、10月8日のライブキャンパスで発表する。ライブキャンパスでの発表が厳しい場合、近隣の高校で発表する。以上の事を実施することで広島の高校生を対象に情報化社会に対する興味を深めてもらう。	情報科学研究科 河野准教授
6	芸術学部 塚本 結	10名 (芸術学部 10名)	写真作品とカメラのワー クショップを通じた基町 アパートの地域活性化	現在広島市中区にある基町住宅地では少子高齢化に伴う地域コミュニティーの活力の低下の問題に直面している。本プロジェクトは基町住宅地区の方々に今の基町を写真作品というフィルターを通して観覧してもらおうと共に外部の人に基町の魅力を知ってもらうことによって、コミュニティーの活性化を目的としている。そのためには基町アパートとは大高正人が設計した広島市のシンボルの一つとされる貴重で美しい建造物であることを再認識してもらうことが重要であり、高度なカメラ技術、表現方法を研究し写真活動を勢力的に行っている広島市立大学の学生や交換留学生、また広島で活動している作家の方に展示してもらおう。そして、事前に地域に住む子供たちと基町の写真を撮るワークショップを行い、一緒に展示することでよりリアルでディープな作品を集めた展示をしたいと考える。一方で子供達に写真を撮る楽しさを知ってもらいカメラを通じて学生と地域の人とのコミュニケーションをとるきっかけを作る。	芸術学部 ウォーゼンチャールズ 教授 南教授

## 2017年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 8件

採択件数 4件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 新井 敦士	19名 (情報科学研究科10名) (情報科学部9名)	市大生によるパソコンなんでも相談室2017	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
2	情報科学部 家平 和輝	7名 (情報科学研究科1名) (情報科学部6名)	広島の中・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、LinuxボードRaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
3	国際学部 角田 大河	4名 (国際学部4名)	広島県の学生を対象としたビジネスコンテストの開催	広島県の学生を対象に、ビジネスコンテストの開催を行い広島県のイノベーションにおけるレベルを向上させ、地域創生に貢献することを目的とする。 企業や地元の金融機関にも協力していただき、投資手続き等の環境の構築にも努め、実際に優秀な事業を始めるための運用資金等の獲得も考えている。	国際学部 李教授
4	情報科学部 武内 亮	3名 (情報科学部2名) (芸術学部1名)	ヒロシマピースキャンプ2017	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授

## 2016年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 8件

採択件数 6件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学部 室星 理歩	5名 (芸術5名)	伝統的板目木版画技法による宮島観光マップ製作のための調査研究	COC+プロジェクトの一環として、来年度予定している板目木版画技法による「宮島すぐろく観光マップ」の製作のため、板目木版画および双六の調査、研究を行う。 またこれらにおいて得られた知識や経験を観光マップ作りに生かすと同時に、宮島の地域活性化つなげることとする。	芸術学部 釣谷講師
2	情報科学研究科 綱本 勇樹	17名 (情研究科8名) (情9名)	市大生によるパソコンなんでも相談室2016	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今回は、以下の点にチャレンジする。 ・ニーズに応じた内容のお役立ち講座を開設し、講座内容のさらなる充実を目指す。 ・相談室の雰囲気などが分かるように動画配信など広報のさらなる充実を図る。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
3	芸術学部 板井 三那子	33名 (芸術31名) (情報2名)	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクト	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクトを計画している。本学の近隣にある竹林(大塚上町)の整備をおこないながら、伐採された竹を使って作品の制作をおこなう。協力してくれるスタッフ(学部生)に竹林の整備や制作に参加してもらい、より多くの学生が地域の方と交流を深めていってもらう内容とする。留学生には日本の工芸として昔から使われてきた竹林に触れてもらいたく、外国人も参加しやすい環境をつくることに努める。より多くの人たちに実際に竹林に入ってもらい、アートを通して地域との関わりを深め、社会問題である竹害について考えていきたい。	芸術学部 前川教授 土井非常勤教員
4	芸術学部 中谷 悠久	11名 (芸術11名)	地域商店街活性化への貢献	地域の文化発信拠点としての横川シネマに地域で生活する学生がコンテンツを提供することによって地域文化の発展に貢献したいと思う。	芸術学部 笠原教授
5	情報科学部 家平 和輝	4名 (情報4名)	広島の中・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらう。また、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座を行う。	情報科学部 弘中教授
6	情報科学部 武内 亮	6名 (情報4名) (芸術2名)	ヒロシマピースキャンプ2016	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供するとともに安全で快適な運営を行う。(1)キャンプサイトの整備、貸出用テントの準備(2)当日の受付及び見回り等	国際学部 井上教授

## 2015年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 7件

採択件数 4件(以下のとおり)

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 岡田 淳司	21名 (情研究科11名) (情10名)	市大生によるパソコンな んでも相談室2015	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤充行助教
2	芸術学部 渡邊 藍子	3名 (芸3名)	ひろしま発人材集積促進プロジェクト(デザイン分野) -Happyシマす。OK Islandプロジェクト-	瀬戸内の離島である“大崎上島”を舞台とした20ヶ月のデザインプロジェクト。 様々な分野のデザイナーやクリエイター島で活動されている方々と交流しながら、地域に根差したデザインの提案、実現に取り込んでいる。地方で顕在している人口減少、コミュニティの衰退、地域産業の衰退といった様々な課題を解決する事を目的に、イベントのデザイン、暮らしのデザイン、製品のデザインにより、地域の人々との交流を図る。	芸術学部 藤江講師
3	情報科学部 武内 亮	8名 (情4名) (国1名) (芸3名)	ヒロシマピースキャンプ 2015	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上泰浩教授
4	国際学部 中田 千夏	23名 (国14名) (情7名) (芸2名)	3学部生コラボレーションによる禁煙パフォーマンス -未成年の未喫煙者のために-	喫煙習慣をもつに至らない未成年者(高校生～未成年大学生)を対象に、同世代の大学生自身がたばこの有害性を学び、それを同世代にアピールする手法でプレゼンテーションをする。それを通じて、本学を拠点とした禁煙化促進へ社会貢献を行う。 ・8/2 オープンキャンパス、10/12 ライブキャンパス、11月大学祭など、来学する高校生など未成年者と保護者に向けてアカペラコーラス、ダンス、フラッシュモブなどのパフォーマンスを行う。	国際学部 太田教授 山口教授 三村保健師

## 2014年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数 6件

採択件数 6件(以下のとおり)

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 菊池 光太郎	18名 (情研究科9名) (情9名)	市大生によるパソコン なんでも相談室2014 秋	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教
2	情報科学研究科 北山 翔馬	15名 (情研究科8名) (情7名)	地域における情報リテラシーの向上および情報モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中・高等学校での情報リテラシー向上及び情報モラル育成のための講演活動を行う。</li> <li>・サイバー犯罪についての注意喚起のため、ポスター、チラシやWebでの広報活動を行う。</li> <li>・企業等に向けて、ウィルス感染についてのデモンストレーションプログラムを作成する。</li> <li>・小学校におけるICT活用支援を行う(昨年度からの継続)。</li> </ul>	情報科学研究科 中田教授 島准教授 双紙准教授
3	情報科学部 武内 亮	6名 (情3名) (国3名)	ヒロシマピースキャン プ2014	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上教授
4	芸術学部 増田 幸美	8名 (芸8名)	広島平和ポスター展	芸術学部デザイン工芸学科視覚造形で課題として制作する平和ポスターを8月6日頃に一般公開する。広島で学ぶ学生が独自の視点や切り口で考える「平和」を多くの人々に伝え、またポスターを目にした人々にも「平和」について考えていただく。	芸術学部 中村講師
5	パイオニアプロジェクト	31名 (芸27名) (国3名) (情1名)	芸術学部 板井 三那子	本学近隣の竹林の拡大問題を解消するために竹を伐採し、また伐採した竹を用いて創作活動を行い、作品を一般に公開する。	芸術学部 前川教授
6	広島市域でのプログラミング技術の普及活動	4名 (情4名)	情報科学部 岩崎 圭太	広島市及びその周辺地域において、プログラミング技術者を講師に迎え、最新技術を利用したプログラミング等の勉強会を、情報系企業の社会人や学生を対象に行う。	情報科学研究科 井上博之准教授

## 平成25年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数 7件

採択件数 6件(以下のとおり)

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	国際学部 西本 淳一郎	9名 (国際学部9名)	定住外国人支援現場 への学生参加	児童の約半数が外国籍である基町小学校区の空き店舗において、PTAが外国籍児童への学習支援を行っていた。しかし、かねてから指導者不足が指摘されていたため、学習支援に参加する。	国際学部 岩田准教授
2	芸術学部 大槻 純子	3名 (芸術学部1名) (国際学研究科1名) (国際学部1名)	学生団体「てくてく」による広島県内への避難者支援プロジェクト	東日本大震災、福島第1原子力発電所の事故により広島県内に避難してきた方に以下の支援を行う。 ・直接支援 ・農作業、託児、学習支援 ・避難者間のコミュニティづくり 尾道市にあるシェアハウスを参考に、避難者同士の交流の場をつくる	国際学部 湯浅教授
3	情報科学研究科 北山 翔馬	8名 (情報科学研究科2名) (情報科学部6名)	小学校におけるICT活 用力の向上 ー広島市立三入小学 校におけるICT活用支 援ー	ICT(情報通信技術)活用が不十分な三入小学校において、全教員のICT活用力を向上できるように以下の支援を行う。 ・ICTに関連する操作の問い合わせへの回答、トラブルの解決 ・ICT機器の操作マニュアルの作成 ・ICT機器の活用方法の相談や提案 ・講習会の開催 等	情報科学研究科 島准教授 双紙准教授
4	情報科学部 立本 健司	10名 (情報科学部8名) (芸術学部2名)	安佐南区民まつりへ の参加	安佐南区民まつりで、芸術性の高い演劇を地域の方に楽しんでいただく。	情報科学研究科 高橋助教
5	国際学部 矢田貝 栄治	5名 (国際学部4名) (芸術学部1名)	フィリピンのスラムに おける住民の自立支 援	フィリピンのセブ島にて住民の自立支援のため、母子の教育向上のためのアンケート、啓発活動等の活動を行う。 また、現地での活動について写真展を開催し、写真展に訪れる人への啓発活動に繋げる。	国際学部 中島教授
6	国際学部 山本 真由美	3名 (国際学部3名)	Hiroshima Peace Camp 2013	平和祈念目的の広島訪問者のための臨時キャンプサイトを市立大学の運動場の中に設置し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流を行う。	国際学部 柿木准教授

## 平成24年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数 9件

採択件数 8件(以下のとおり)

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	芸術学部 力石 遥	19名 (芸術学部19名)	大型絵画共同制作 -広島市立高須小学校 「お月見コンサート」会場 装飾として-	高須小学校で行われる「お月見コンサート」において芸術学部の学生と高須小学校の児童により共同制作した大型絵画を展示する。	松尾講師 (芸術学部)
②	情報科学研究科 青山 裕紀	21名 (情報科学部21名)	第6回 パソコン・スマートフォンなんでも相談室(初心者対象)	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や新しい利用法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。	小林教授 (情報科学研究科) 齋藤助教 (情報科学研究科)
③	国際学部 畑中 朝子	5名 (国際学部3名) (情報科学部1名) (芸術学部1名)	Hiroshima Peace Camp 2012	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・音楽ライブ、ミサガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯籠流しへの案内 等	井上教授 (国際学部)
④	国際学部 谷口 薫	14名 (国際学部14名)	学生による地域日本語教室への参加	沼田公民館における日本語教室支援 地域の外国人住民と学生の交流。地域国際交流会やふるさと祭りへの参加	岩田准教授 (国際学部)
⑤	国際学部 芳野 佑介	6名 (国際学研究科1名) (国際学部4名) (芸術学部1名)	学生団体「てくてく」による広島県内への避難者支援プロジェクト	東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故により広島県内に避難してきた人たちの生活再建やコミュニティづくりの支援	湯浅教授 (国際学部)
⑥	国際学部 亀田 菜摘	5名 (国際学部5名)	あさがお-国を超えた地域貢献活動-	学生と留学生でペアを組み、宮島でおススメの観光プラン等を韓国人をメインとする観光客に提案する。ガイドも行い、独自に作成したガイドブックによりユニークな観光プランを提供する。	金准教授 (国際学部)
⑦	国際学部 赤穴 沙季子	12名 (国際学部12名)	マーケティングの観点からの街づくりプロジェクト	安佐南区役所が主催する「あさみなみまちづくりアイデアコンテスト」への参加 地域と大学の連携及び地域を活性化させる活動の学習を通じて、マーケティングの観点から研究する。	大東和教授 (国際学部)
⑧	国際学部 土井 瑛美香	30名 (ダンス部30名)	安佐南区民祭りへの参加	安佐南区民文化祭りへの参加 昨年度、安佐南区民文化祭りに参加し地域の住民から好評を得た。しかし昨年度は準備期間が短く満足のいくダンスができなかった。今年度はより高い完成度のダンスを披露するために早期に準備を開始し、地域住民へ披露する。	宇野教授 (国際学部)

## 平成23年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数 6件

採択件数 5件(以下のとおり)

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国際学部 関 友里恵	9名 (国際学部9名)	学生による地域日本語教室への参加	昨年度に引き続き沼田公民館、ひろしま国際センターにおいて日本語指導のボランティアを実施する。また、プロジェクトの一環として、沼田ふるさと祭りなどの地域イベントにゼミとして関わる。	岩田講師 (国際学部)
②	国際学部 平林 典子	4名 (国際学部3名) (芸術学部1名)	サンフレッチェ広島と連携したエコなゴミ回収方法の開発	サンフレッチェ広島、広島ビッグアーチと連携し、以下の活動を行う。 ・サンフレッチェ広島へのプロジェクト概要説明及び協力依頼 ・昨年度企画書の見直し、サンフレッチェ広島及び広島ビッグアーチとのミーティング、再調査 ・作成するゴミ箱の設置場所やデザインの実体化 ・芸術学部とのミーティング:ゴミ回収に関する案内板と新しい回収ボックス製作と設置 ・ポスターとチラシの製作、宣伝 ・設置後の分別状況の調査、報告書作成	山口准教授 (国際学部)
③	情報科学研究科 坂本 信一	22名 (情報科学研究科12名) (情報科学部10名)	第5回 パソコン出前なんでも相談室(初心者対象)	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や新しい利用法の提案などを行うことにより、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。今年度も、前年度に引き続き交通の便が良く、かつPCの台数やネット環境が整っている「まちづくり市民交流プラザ」で実施する。	小林教授 (情報科学研究科) 齋藤助教 (情報科学研究科)
④	国際学部 土肥 安希乃	13名 (国際学部13名)	広島ピーススタディツアーの企画・実行	8月5日～7日の3日間で、66年前に広島で起きたことを伝え、平和について考え話し合う場を提供する「広島ピーススタディツアー」を開催する。ツアーの具体的内容は、以下のとおり。 ○広島平和記念資料館・公園見学 ○被爆者体験聴講 ○映画を使ったワークショップ、ディスカッション	宇野教授 (国際学部)
⑤	芸術学部 濱永 由佳	5名 (芸術学部3名) (非常勤助教等2名)	温井ダム周辺地域活性化のためのアートプロジェクト	温井ダム周辺地域は、主要観光地となりうる条件を持つ場所であるが閑散とした状況にあり、また、人の往来が遮断されているという問題を抱えている。これを解決するため、「ダムしゃべる」というイベントを、温井ダム近くの公園で行われる「龍姫湖まつり」の日に合わせて開催し、ダムの魅力、ダムのある町、安芸太田町を外へ広める。	吉田教授 (芸術学部)
⑥	国際学部 中島 優	3名 (国際学部2名) (芸術学部1名)	「ヒロシマピースキャンプ」の運営	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・音楽ライブ、ミサンガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯籠流しへの案内	大東和教授 (国際学部)

平成22年度 学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数 6件

採択件数 5件(以下のとおり)

区分	申請者 (代表者)	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 今井 ひとみ	8名 (国・学8名)	学生による地域日本語教室への参加	昨年度に引き続き沼田公民館、ひろしま国際センターにおいて日本語指導のボランティアを実施する。	岩田講師 (国)
②	情・研 小鐵 和昭	18名 (情・研11名) (情・学7名)	第4回 パソコン出前なんでも相談室	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や、新しい利用法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。今年度は、まちづくり市民交流プラザで実施する。	小林教授 (情) 齋藤助教 (情)
③	国・学 深尾 尚吾	4名 (国・学3名) (芸・学1名)	「ヒロシマピースキャンプ」の運営	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・ライブ、ミサンガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯籠流しへの案内	大東和教授 (国)
④	情・研 守田 瞬	3名 (情・研2名) (情・学1名)	モーターの原理と実装実験	将来の理数系学生を増やすため、小学生を対象にモーターのしくみを教え、実際にモーターを動力源とした扇風機を作成する。小学生の夏休み中に実施。	佐野教授 (情)
⑤	国・学 兼実 咲江	2名 (国・学2名)	サンフレッチェ広島と連携したエコなごみ回収法の開発	サンフレッチェ広島、広島ビッグアーチと連携し、以下の活動を行う。 ・ビッグアーチを利用する団体が実施するエコ活動の情報集約・発信 ・ゴミ回収ボックスと分別方法の見直し ・ポスターとチラシによる宣伝 ・活動前後の状況を写真によって比較	山口准教授 (国)

平成21年度 学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数 10件  
採択件数 8件(以下のとおり)

区分	申請者 (代表者)	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 小西 由華	4名 (国・学3名) (国・研1名)	地域日本語教室への日本語支援とパネル展	沼田公民館、広島国際センターにおける日本語指導のボランティアを行い、活動とともにパネル展を行う。	岩田講師 (国)
②	国・学 宮原 依里	5名 (国・学)	地域高齢者施設や病院等への出張演奏会	広島市内の高齢者施設や病院等を利用して地域住民のもとに出向き、クラシックや唱歌などの演奏会を行い、地域と学生の交流の機会をはかる。	大東和教授 (国)
③	国・学 竹田 彩乃	8名 (国・学7名) (国・研1名)	開発と環境 タイでの植林活動・地域住民との交流	NICE日本国際ワークキャンプセンターのグループワークキャンプを利用し、タイでNGO団体Dalaaとの植林を主な活動とし、地域住民との交流、インタビューを行う。	中島教授 (国)
④	国・学 脇山 都	2名 (国・学1名) (国・研1名)	イラクの子どもの 絵画展	広島市内の会場(カフェパコ大手町)においてイラクの子どもたちが描いた絵や、NoDUという団体が所有する2009年のイラクの様子を写した写真を展示する。5日間の開催でライブやワークショップも予定している。	柿木准教授 (国) 湯浅教授 (国)
⑤	情・研 高橋 勇登	13名 (情・研5名) (情・学8名)	第3回 パソコン出前なんでも相談室	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や、新しい利用方法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域へ還元する。第3回目はインターネット利用可能にして、前回対応できなかった新たな質問に対応できるようにする。	小林教授 (情) 齋藤助教 (情)
⑥	芸・学 福永 桂子	9名 (国・学5名) (情・学2名) (芸・学2名)	LOVE & PEACE FESTIVAL	市民団体ピースキャンプの意図に賛同した市大生有志が、企画、運営する。「夏祭り」という親しみやすい環境の中で、宿泊者・市大生・地域住民との積極的な交流の場を提供する。国内、海外からの宿泊者に広島の文化を体感してもらい、平和について非言語的な意見交換の場をつくることを目的とする。	藁谷教授 (芸) 大東和教授 (国)
⑦	芸・学 濱永 由佳	4名 (芸・学3名) (芸・研1名)	温井ダム周辺地域 活性化のためのサウンドアートプロジェクト	現在閑散とした状況にある温井ダム周辺を、開かれた観光地としての価値を高めるため、アートを利用して地域が魅力あるコンテンツを提供できるように、地元関係者と計画を進める。ダムの放水音、滝の音、カエルの声、電車や踏み切りの音などの環境音を再構築して、加計の町を肌で感じることでできるサウンドアートを制作し、町の内外をつなぐイベントを発信していく。9月から10月を目安に紅葉の時期に行い、夜間であればライトアップ、日中は霧のスクリーンなど、サブプログラムも用意する。	南教授 (芸) 吉田教授 (芸)
⑧	芸・研 佐々木 圭司	7名 (芸・研3名) (外部3名)	すきまあーと・プロジェクト	広島市中区えびす通り商店街を会場とし、通りに面する店舗のショウウィンドウ内、店舗の入口付近、壁面、アーケード空間、通りの路面、建物と建物の間の空間などを都市の「すきま」と捉え、「すきま」を見つけてアートを設置する。設置する作品は実施学生の作品及び、小学生の子どもたちによる「街のオブジェ(仮題)、自転車オブジェ(仮題)」をワークショップ形式で制作する。	鯉澤教授 (芸)

## 平成20年度 学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数 9件

採択件数 5件(以下のとおり)

区分	申請者 (代表者)	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 宮原 依里	2名 (国・学)	地域日本語教室への 日本語支援	沼田公民館、広島国際センターにおいて、日本語 教室（ボランティア）で日本語指導を行う。	岩田講師(国)
②	情・学 位田 耕基	13名 (情・研)	第2回 パソコン出前 なんでも相談室	中高生、主婦、高齢者又は障害者などのパソコン 初心者を対象として、地域の公的な施設に外向 き、パソコン相談室を開催する。数名の相談員 が、各種の相談に応じ、必要に応じてパソコンに よるデモを行いながら、パソコンの便利な活用法 や問題解決等のアドバイスを行う。	小林教授(情) 齋藤助教(情)
③	芸・学 廣岡美佐子	9名 (芸・学 6名) (情・学 1名) (国・学 2名)	THANKS 51 プ ロジェクト(広島市民 球場をテーマとした ドキュメンタリー制 作とその発表ととも に行う展覧会)	① ドキュメンタリー制作 2008年がラストイヤーにあたる広島市民球場を扱ったドキュメ ンタリー(40分～60分)制作を行う。 ② THANKS 51 作品展 カープの新球場への移転に合わせて2009年3月に、まちづくり 市民交流プラザ(広島市中区)で作品展を行う。ドキュメンタリー の発表を行うとともに、市立大学の学生(約20人)が「ありがた う市民球場～新球場につなげる想い」というテーマのもと制作する 作品(表現方法は自由)を発表展示する。	中嶋教授(芸) 曾根准教授(国)
④	芸・学 平岩 沙織	5名 (芸・学3名) (情・学1名) (国・学1名) その他計8 ～10名	被爆体験者の証言を 残すためのドキュメ ンタリー制作	(財)広島平和文化センターと連携し、 ① 被爆体験者の証言活動の撮影 ② 直接被爆体験者の方に証言を聞いての撮影 ③ 平和公園等の撮影 を行い、発表する。	中嶋教授(芸)
⑤	芸・研 黒田 大祐	6名 他 (芸・研)	川辺のアートプロジェ クトによる、市民の芸 術的交流の場の創出 と、水辺の賑わいづくり	2008年10月18～19日、広島市中区空鞆橋東詰基町環 境護岸において、彫刻専攻の学生によるテント型作品の 設置と、これを中心としたアートイベントを開催す る。アートイベントでは、絵画、彫刻の作品展示のほ か、ダンスやコンサート等の催し、子ども向けワー クショップを予定。 (広島市の「水の都ひろしま」構想に沿った取組みと して実施。)	伊東教授(芸)

## 平成19年度 学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数 11件  
採択件数 11件(以下のとおり)

区分	申請者 (代表者)	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 時澤 典子	7名 (国・学)	開発と環境 フィリピンでの植林 活動と社会調査	森林の伐採が進むフィリピンにおいて、植林活動、政府機関へのインタビュー等の調査を行う。帰国後、フィリピンの状況や日本の状況について、市民を対象に研究報告会を開催する。	中島教授(国)
②	情・研 坂谷 健治	17名 (情・研)	パソコン出前なんで 相談室 (初心者対象)	地域の公的な施設(公民館、集会所など)へ出向き、パソコン初心者を対象に、パソコン相談室を開設する。 ・開催回数：今秋3～5回程度(各回1.5時間) ・相談員数：各回3～5人程度	小林教授(情) 齋藤助教(情)
③	芸・研 山本 桂子	6名 (芸・学 3名) (芸・研 3名)	五日市コイン通り 「金持神に会える 街」の金持神モニュ メントの整備	コイン通りの活性化のため、造幣局にちなんだ「金持神モニュメント」(10体前後)を整備する。(平成20年3月設置完了予定)	南教授(芸) 吉田准教授(芸)
④	情・学 小原 一樹	3名 (情・学)	電子自治体構築にお いて、OSSを活用 する汎用ソフトウェ ア・アーキテクチャ の設計	経済性・汎用性の高いOSSを活用するソフトウェアの基盤のアーキテクチャ設計を、広島市情報政策課職員と共同で実施し、試験的にその一部を実装する。	双紙准教授(情)
⑤	芸・学 沖中 志帆	2名 (芸・学)	広島の折鶴について	次の組み合わせによる、映像又はパフォーマンスの表現行為。 1 小学生に対して折鶴に関するレクチャーを行った上で、ワークショップとして折鶴を折る動作をパントマイムのように行う。 2 旧日本銀行広島支店に保管されている折鶴を撮影する。 今年度の卒業制作の作品として、折鶴を折る動作をパントマイムのように行い、平和を願うとき、私たちは何か大切なことを見失っていないかを考える。	柳教授(芸)
⑥	芸・研 土井 満治	2名 (芸・研)	8月6日通り(仮称) 歩道縁石のデザイン と実制作	8月6日通り(元安川左岸の原爆ドーム横の通り)の歩道整備について、中区土木課からの依頼(委託)受け、本学芸術学部で縁石のデザインと実制作を行う。	吉田准教授(芸)
⑦	芸・学 宮丸 翔子	2名 (芸・学)	アートによる地域振 興を考えるフォーラ ム	旧中工場アートプロジェクトの会場の一つとなった吉島公民館において、アートによる地域振興を考えるフォーラムを開催する。 ・開催回数：6回(10月6日～3月1日の間)	加治屋准教授(芸)
⑧	芸・学 衣笠木乃美	2名 (芸・学)	ビニール袋を再利用 したエコロジカルな アート作品を市民参 加で制作するワーク ショップ	ビニール袋を再利用して造花のアート作品をつくるアーティスト丸山純子さんの監修の下、市民参加のワークショップを開催する。 ・開催日：8月18日・19日 ・会 場：吉島福祉センター	今井非常勤助教 (芸)
⑨	芸・学 沖中 志帆	4名 (芸・学)	地域再生アートプロ ジェクト	富山県氷見市で毎年行われている地域再生のアートプロジェクト「ヒミング」の学生主体プロジェクト「氷見サマーアートスクール」に参加し、他大学と共同でフィールドワークを行い、映像作品を制作する。(9/1～9/9)	柳准教授(芸)
⑩	芸・研 鹿田 義彦	3名 (芸・研)	国際交流により、都 市の問題を考えるプ ロジェクト	本学とバイセンゼー大学との交流事業であるアートプロジェクト「Hiroshima Art Project 2007-2008 CAMP BERLIN - HIROSHIMA」において、ベルリンと広島の両都市の国際交流により、それぞれの都市問題を交換するイベントを行う。(11/3 アリスガーデン)	鍛澤准教授(芸)
⑪	芸・研 鹿田 義彦	5名 芸・学 2名 芸・研 3名	広島とベルリンの都 市問題交換プロジェ クト	本学とバイセンゼー大学との交流事業であるアートプロジェクト「Hiroshima Art Project 2007-2008 CAMP BERLIN - HIROSHIMA」の企画の一つ<プレイベント・ワークショップ>を本学のオープンキャンパスで実施する。(8/8 本学)	大井教授(芸)